

(4) 農業分野の温室効果ガス排出削減対策

「農業機械の省エネ利用マニュアル」について

「農業機械の省エネ利用マニュアル」は、農業者の方々に地球温暖化に影響を及ぼす温室効果ガスの排出削減を農業経営の中において意識して頂き、二酸化炭素の排出抑制やコスト削減の観点から営農活動に活かして頂くことを旨として作成したものです。研究機関等から寄せられた情報をもとに、農林水産省生産局において本年6月にとりまとめました。今後、関係団体等の協力の下、随時情報の充実を図りながら普及・啓発を推進することとしています。

～「農業機械の省エネ利用マニュアル」の概要～

1. 保守点検編

以下の事項について、機械が本来の燃費性能を発揮するための保守点検のポイントを紹介。

- ① エンジン（トラクター、コンバイン）
- ② 動力伝達部（トラクター、トラクター作業機、コンバイン、乾燥機）
- ③ 走行部（トラクター、コンバイン）
- ④ 作用部（トラクター作業機、コンバイン）
- ⑤ エアコン（トラクター、コンバイン）
- ⑥ バーナー等（乾燥機）

（例1）エアクリーナーの清掃を行う（トラクター、コンバインのエンジン）

→エンジンのエアクリーナーが詰まっていると、空気不足となり、燃費が悪化します。
定期的に点検し、清掃や交換を行いましょう。

2. 作業編

燃料消費の大きい、トラクター、コンバイン、穀物乾燥機について、燃費を改善するために留意すべき作業上の留意点を紹介。

（例2）適正なエンジン回転で作業する（トラクター）

→トラクターは様々な負荷で作業を行いますが、一般に、必要以上に高いエンジン回転で作業すると、燃費が悪化します。例えば、30馬力級のトラクターで、エンジン回転を定格（2,600rpm）から1,800rpmに下げて作業すると、最大出力の50%程度の負荷の作業で約20%、20～30%程度の負荷の作業で約30%燃料消費量を節減できるという測定例があります。負荷の状態にあった適正なエンジン回転で作業しましょう。